

Keep Town Beautiful

全国まち美化連絡会議ニュースレター

VOL.16

歌舞伎町で「拾う!大調査線」開催!

新宿区の高田馬場に、司法試験や公務員試験の予備校として知られる「伊藤塾」の高田馬場校があります。

2月17日(日)、伊藤塾の公務員試験科に通う塾生たちが自ら企画して、歌舞伎町を清掃する「拾う!大調査線」が行われました。新宿区環境保全課も積極的に協力したこのイベントの様子をご報告します。

もともとこの企画は、「伊藤塾のある高田馬場駅周辺を清掃したい」として、区役所環境保全課に相談があったものです。

しかし、日本一の繁華街といえる歌舞伎町の方が、ポイ捨ての現状や対策の必要性がわかることから、区と協議する中で、歌舞伎町で行うことになりました。

当日はあいにく小雨まじりでしたが、集合場所の区役所地下1階の食堂には、伊藤塾塾生約30人に加え、サポーターとして参加する区の職員、早稲田大学の学生など40数名が集まりました。

まず集まった参加者は6つの班に分かれ、それぞれの担当ブロックを、どういったルートで清掃するかを話し合いました。各班に参加している区の職員が、どのあたりに散乱が目立つかをアドバイスしながら、議論は進みます。

午後1時半、清掃のスタート。この清掃活動の特徴は、同じ場所を2回にわたり清掃することです。一旦きれいになった歌舞伎町繁華街の様子が、短時間でどの程度変化するかを見るためです。

参加者のなかには、これまで清掃の経験がないのか、箒の扱いになれていない人も見受けられます。一方、散乱の種類と場所を記録する係りの参加者は、真剣な表情でまちの様子を点検しています。

ただ、どの参加者も清掃を通じて、歌舞伎町に散乱ごみがどれだけ多いか、あらためて感じた様子。感想を聞いてみると、

「タバコのポイ捨てが多い」

「植え込みにごみが目立つ」

「掃除がたいへんで腰が痛い!」

といった声があがっていました。

さて、1回目の清掃を1時間程度で終え、2回目に向かう間には、地元の方から歌舞伎町の美化の様子に関するスピーチがありました。歌舞伎町の映画館「ミラノ座」の井沢支配人によると、映画館街だけで年間二百数十万人の来街者があるとのこと。

「地域の振興組合に入っていない商店も多いし、みんなが一つの方向を向くのが難しいのが歌舞伎町だけれど、きれいなまちにするためにがんばっていききたい」とのこと、その力強いことばに、参加者からの質問も多く寄せられていました。



出発前に、参加者で清掃のコースや、集まるごみの量や種類の予測を話し合います。



靖国通りを塾生のみなさんと掃き掃除。



どんなごみが目立つのかを点検。真剣な表情です。